

「旬の見験 楽学便」 を片手に

ひとりで歩く 見験楽学ツアー

片平キャンパス歴史散歩—偉人編—



監修：加藤諭
(東北大学史料館准教授)

東北大学創設の地である片平地区は、仙台医学専門学校や旧制第二高等学校など、明治期以来の登録有形文化財をはじめとして、歴史ある建築物が今なお活用されながら残っています。また教育・研究の場として多くの学生が学び、多くの偉人が輩出されてきたこの地は、碑や公園、記念室などを通じて、その歴史の雰囲気を感じることができます。

毎回好評の「見験楽学ツアー」、昨年秋(2019年)のツアーは不運にも台風で中止になってしまい、いまは新型コロナでソーシャルディスタンスな日々。そこで、「旬の見験楽学便」を片手にひとりでできる見験楽学ツアーとして、あらためて「片平キャンパス歴史散歩—偉人編—」をお送りします。

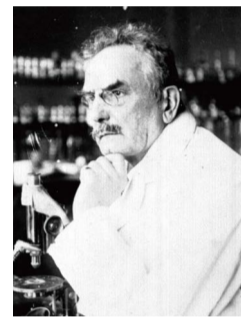



START

- 1 東北大学史料館
- 2 眞島利行先生像
- 3 魯迅先生像
- 4 小川記念園
- 5 ハンス・モーリッシュの樹
- 6 乃木將軍遺愛の松
- 7 本多記念館／本多光太郎先生胸像
- 8 魯迅の階段教室 **GOAL**

5 ハンス・モーリッシュの樹(1925年)

東北帝国大学の生物学科の増設に伴い招聘されたのが、植物生理学の世界的権威だったウィーン大学のハンス・モーリッシュ(1856-1937年)。彼は在職中に「光合成の明反応」を発見しました。帰国後は、ウィーン大学総長になったほか日本文化の体験記も著しました。この杉の木は彼が自らの研究生生活を記念して植樹した5本のうちの2本です。

ハンス・モーリッシュ

6 乃木將軍遺愛の松

乃木希典(1849-1912年)は日清戦争で名をあげた後、1896年に陸軍第二師団長として仙台に着任し、庭先に松が植えられた片平地区の官舎で約7か月間過ごしたと言われています。時を経て、本多光太郎の在職25周年記念事業のため土地を買収した際に、本多がこの古い松を惜しみ、ここに移植し石碑を建てました。



7 本多記念館(1941年)／本多光太郎先生胸像(1958年)

今年生誕150周年にあたる本多光太郎(1870-1954年)。本多記念館は、金属材料研究所の設置に尽力し、後に大学総長にもなる彼の在職25周年を記念して計画され1941年に竣工した鉄筋コンクリート造3階建ての建物。記念館のなかには、「本多記念室」「資料展示室」が併設され、本多が使用していた実験ノートや金属材料研究所が開発に携わった製品などが展示されています。
※当面閉館中。





4 小川記念園(1933年)

東北帝国大学理科大学の初代学長で、研究者として初めて総長となった小川正孝(1865-1930年)。新元素「ニッポニウム」の解明に情熱を注ぎ(後に「レニウム」であると判明)、後進の研究者に大きな影響を与えました。東北大学の基礎を築くために工学部の運営や理学部の拡充・整備にも尽力した彼を偲び、この公園が整備されました。




小川正孝

1 東北大学史料館／旧東北帝国大学附属図書館閲覧室(1926年)

小倉強が設計したロマネスク様式の建物で、外壁の煉瓦張りと漆喰塗、アーチ型の窓は当時の雰囲気を残します。1963年、大学附属図書館内に東北大学の歴史に関する資料の保存・公開を目的とした「東北大学記念資料室」が開設された後、現在の施設として独立しました。大学の歴史を紹介する展示や貴重な建造物の内部を見ることができます。

展示室:リニューアルのため2021年再開予定。
閲覧室:2020年10月より再開
開館日:月～金曜日
10:00～17:00(祝日・夏期休業日・年末年始をのぞく)




附属図書館時代の写真



8 魯迅の階段教室／旧仙台医学専門学校六号教室(1904年)

建物内部は、東側に講壇を配した教室一室のみです。魯迅が学んだ場所として知られ、「魯迅の階段教室」という呼称で親しまれています。中国からの来訪者の名所で、1998年には江沢民主席(当時)が訪れ、国境を越えた歴史遺産となっています。
※当面閉室中。2021年再開予定。




2 眞島利行先生像(1994年)

東北帝国大学理科大学(現東北大学理学部)の初代教授である眞島利行(1874-1962年)は、漆の成分であるウルシオールをはじめ日本の有機化学を拓く研究成果をあげました。次世代への育成も熱心で、日本の化学分野を国際水準にまで高めたほか、日本最初の女子大学生の一人、黒田チカ(カ)の恩師でもあります。この像はその栄誉を讃え、生誕120周年を記念して建立されたものです。



3 魯迅先生像(1992年)

「中国近代文学の父」と称される魯迅(ろじん/本名:周樹人/1881-1936年)は、1904年に仙台医学専門学校(現東北大学医学部)へ入学後、約1年半の在学中に文学への転身を決心します。後に在学時代の恩師・藤野巖九郎先生との交流を綴った短編小説『藤野先生』を発表します。この像は、生涯の転機となったこの地に記念として建立されました。

